

病気になるっても自分らしく生きたい
ありのままの自分で生活したい
そう願うことは全ての人と同じ思いです
大切な人が重い病気になったとき
その人らしく生活でき、その人らしく生きられる
そして病気になるっても今ままと変わりなく社会の中で必要とされ
勉強しながら、働きながら闘病できる地域や社会であってほしい
いま、大切な人のその思いや希望に寄り添える
医療や支援が広がりつつあります
病気になるった人だけが寄り添える地域や社会ではなく
すべての人がその人らしく生きられるよう
自分や大切な人のいのちについて考えるきっかけになってほしいと願い
この講演会を企画しました

Home Just be yourself

病気になるっても
ありのままの自分で過ごせる居場所
～緩和ケア・在宅緩和ケア・小児緩和ケアを考える～

2025

11/23 日

13:30～16:10

開場 13:00

高山市民文化会館 小ホール

チケット

1,000円



いただいた参加費の一部は
「NPO法人 愛知こども
ホスピスプロジェクト」へ
寄付されます

※学生の方は無料でご参加いただけます

予約QR



※チケットは、高山市民文化会館で
ご購入いただけます。
ご予約は、左記QRコード、または
代表 三井までお電話ください。

ゲスト

益田 大輔先生（精神保健指定医 専門医 産業医、高山市議会議員）

駒屋 憲一先生（ひだ在宅クリニック、ひだ在宅クリニック丹生川出張所 院長）

明和 靖恵看護師（くれよん在宅クリニック 看護師・プロデューサー）

新家 一輝先生（愛知こどもホスピス 副代表、名大教授）

タイム
テーブル

13:30

開演挨拶

13:40
～14:00

フレゼン

益田先生、がんサークルOwls三井

14:00
～15:40

第1部

途中休憩あり

講演

駒屋先生、明和看護師、新家先生

15:40
～16:10

第2部

登壇者全員のトークセッション

16:10

閉会

講演会登壇者

精神保健指定医
専門医 産業医
高山市議会議員
益田 大輔



愛媛大学卒業後、高山赤十字病院心療内科勤務を経て、現在は精神科医として須田病院医長、その他たかメンタルクリニック・Mこころクリニック・飛騨こどもセンター嘱託医も務めながら、高山市議会議員としても患者さんや地域・市民のために寄り添っている。自然に誰もが自分の声を持ち、自分らしく活動する役割がある街。認め合い、応援し合いながら、安心して挑戦し成長し続けられる街。そして相互承認と自己実現がしやすい地域を作りたいと思っている。すべての人が必要とされ、生き甲斐が見つかる街を目指して全力を尽くしてみえる。

ひだ在宅クリニック
ひだ在宅クリニック
丹生川出張所
院長
駒屋 憲一



愛知医科大学で消化器外科医として勤務中、飛騨地域の医師不足から当直医の派遣依頼があり、出身地でもある飛騨へ出向くことになる。地元に戻って地域医療に貢献し、患者さんと最期まで長く関わる在宅医の仕事に興味を持ち、在宅医療に特化した飛騨初のひだ在宅クリニックを開業した。『在宅医療を通して地域に寄り添う』を理念とし、患者さんとそのご家族に最期まで寄り添う診療を行っている。限られた時間を患者さんと家族にどのように生きてもらうか、病院では出来ないこと、在宅だから出来ることを常に考えながら行動している。

くれよん在宅クリニック
看護師・プロデューサー
明和 靖恵



急性期病棟や緩和ケア病棟などの経験を経て、その人らしさを支援したいという想いから訪問看護師になる。仕事をしていくうえで、ひとの最期に寄り添える在宅医が圧倒的に不足し、訪問看護だけでは支えきれない現状に課題を感じた。その後同じ想いを持つ仲間に出会い、2020年に在宅医療の診療所くれよん在宅クリニックの立ち上げに参加。くれよん在宅クリニックは「納得できる生き方、終い方をすべてのひとに」を理念に、富山県で最も多くの在宅見取りを行うクリニックであり、1件の訪問に時間をかけ、丁寧にACPを実践している。現在はプロデューサーとしてクリニックが地域に提供する価値を模索しながら、患者さんに寄り添っている。

愛知こどもホスピス
副代表
名大教授
新家 一輝



金沢大学卒業後、名大病院小児科病棟で看護師として勤務。その後大阪大学大学院に進学。在学中から重い病気や障害がある子どものきょうだい支援のボランティア活動に従事する。現在は名古屋大学大学院・教授として従事。小児がんをはじめ、重い病気や障害がある子どもたちやご家族の尊厳が社会のなかで確保され続けるために、自分たちがどうあれば良いのか自問しながら看護の立場で、研究・実践・教育に取り組んでいる。また生命が脅かされる状況にある子どもときょうだい、家族が今を存分に生き、どんな気持ちも分かち合えることに寄与できる活動になることを願い、愛知こどもホスピス設立を目指している。

存分に生きるを、一緒に。



Aichi Children's Hospice
愛知こどもホスピス
プロジェクト

こどもホスピスは、生命を脅かされる病気や障害のある子どもときょうだい・家族の居場所です。今という大切な時を存分に生き、楽しみや喜び、悲しみ、どんな気持ちも共に分かちあえる「こどもホスピス」の設立・運営を目指し、こどもホスピスと小児緩和ケアの普及活動、人材育成を実践します。

悩みを打ち明け、相談できる場を作る



がんサークル
Owls

がんサークルOwls(オウルズ)では、飛騨地域でがんサバイバー、そのご家族を対象とした座談会や勉強会を開催しています。がんになったことは、決して特別なことではありません。がんになっても自分らしい人生を送ることはできます。ひとりではありません、仲間と一緒に一歩踏み出してみませんか！

☎090-7697-3783 ✉yu.mu.pu.1014@docomo.ne.jp